

## 平成30年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書（案）

### 1. 法人運営に関するもの

本年度は 報酬改定の年であり、目標工賃達成加算や基本報酬の減額などで就労継続支援B型事業所にとっては大変厳しい改定となった。こうした中、事業の安定と職員の処遇向上を図る為、これまでキャリアパス制度の導入と就業規則などの全面改正を行う事で、処遇改善加算Iを取得した。キャリアパスに於いては各事業所の状況に合わせてながら、個々の事業所において人材育成の為の取り組みを行っている。また4週間単位の変形労働時間制の導入も行い、曜日に関係ない、利用者様の支援に応じた職員の勤務体制を整えサービスの提供に当たるようになる。しかし反面、多良岳福祉園と昆虫の里合同の早朝会議や全職員を対象とした合同会議の開催が困難となった為、こうした事も事業所毎で情報共有を図るようになった。

法人の情報発信としては、専門業者に依頼し、ホームページをリニューアルし、法人の活動を適切な情報開示が行えるよう行っている。

こうした取り組みを行いながら、経営理念「互譲互助」を元に事業計画で掲げた6つの事業について実施している。

### 2. 福祉事業活動

佐賀西部コロニー運動会は、台風接近により中止としたが、第34回全日本カブト虫相撲大会や雨天順延の判断としたが佐賀西部コロニー収穫祭など盛会に実施することができた。また視察研修旅行をはじめ、各事業所において様々な余暇活動も実施した。

### 3. 就労事業活動

海水栽培と地域元気営農事業への取り組みを進めながら、農福連携への活動を実施した。また 多良岳福祉園では、生産活動から生活支援へシフトをしながらも例年並みの工賃支給を行い、また昆虫の里に於いても、各所施設整備を木工部門による内需事業でカバーしながら、当初予算の売上収入を達成している。また 白石作業所においては、本年度も新商品開発と販売促進に取り組みながら地域交流を深めていった。

平成30年度 昆虫の里 事業実績報告書 (案)

1. 総括事項

(1) 施設運営について

平成30年度の就労事業は厳しさを増す中で、安定した受注及び生産活動と純利益重視の取組みを目指した。本年度より職員は変形労働シフト勤務になり、今まで以上に責任所在や業務の引継ぎなどが重要になり、様々な課題に対しても部門で話し合い業務の改善や役割分担を図った。利用者処遇に関しては個別支援計画書に基づき、ひとりひとりにあった細かな支援を行い生活の質(QOL)の向上を目指しワークライフバランスの充実の強化を図った。

課題であった利用者さんの健康維持活動については、医療連携を含む個別に対応した食事指導・支援のあり方等をホームスタッフと連携しながらスタートする事が出来た。

職員の資質向上については、各種研修会など参加や社会福祉主事、サビ管など資格取得の研修を受講させ、福祉施設職員としての知識向上と意識改革を図った。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

本年度の34回全日本カブト虫相撲大会は利用者と共に準備に取組み、大会時には利用者さんがスタッフとして参加し参加者と交流を深めた。

3施設合同の視察研修旅行においては観光を楽しみながら社会のルールや食事マナーなど経験出来た。また本年は武雄温泉ハイツにて観劇と食事会を実施し利用者さんは貴重な経験ができて職員との交流が一層深まった。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。また偶数月第1土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

安全配慮に心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。昨年度より利用者職員合同朝礼時にラジオ体操を取入れ、体力維持や体調管理に心がけてもらい毎日明るく元気に活動できるように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、73,822千円と昨年より1,316千円の増収となった。利用者さんは1名減員と1名の増員であり全体で利用日数の増加により運営費が増収になった。施設整備については老朽化していた送迎車両、食洗器、冷凍冷蔵庫等をリース契約し、更に電力監視システムを導入し電気代の見直しを図った。また食堂及び利用者さんの休憩所のエアコンなどを新設にて導入した。

3. 就労支援事業活動

今年度は木工部門については大口受注が減ったが、施設工事や木製新聞ラックなど特注品を年間通じて製作し、更に経費節減を図るなど事業の再検討や見直しを図った。園芸部門は部門内の収支を細分化し今後の事業の方向性を検討しながらの活動となる。特に果樹はミカン園全体が老木の為、品質向上のため改植事業を行ったため収入減となった。そこで施設資源の活用を目的に昆虫公園のクヌギを利用した、キノコ栽培など次年度の新たな生産活動の足掛かりを作った。印刷部門については価格競争が激化する中で、新規の顧客や新商品の提案などで年間通じた契約が結べた。就労支援事業収入は前年度より2,864千円減の35,069千円になったが最終的に収支は黒字で終えた。なお 利用者の工賃については、昨年度比108円増額の一人当り月平均35,248円を支給することが出来た。

部門別の実績については、下記のとおりである。

		平成30年度 (千円)	平成29年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入		16,009	13,153	2,856	121.7
園芸部門	昆虫収入	1,905	1,885	20	101.0
	果樹収入	7,143	14,318	▲7,175	49.9
	蔬菜収入	1,479	0		0
印刷部門収入		8,532	8,575	▲43	99.5
合 計		35,069	37,933	▲2,864	92.4
一人当り工賃		(円/月) 35,248	(円/月) 35,140	108	100.3

## 平成30年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書（案）

### 1. 総括事項

#### (1) グループホーム運営について

グループホームは利用者さんにとって「我が家」であり、生活支援員及び世話人は家族同様の思いで個別支援計画に基づき細やかな支援に努めてまいりました。

特に課題であった食事指導・支援の必要な方には、医療連携し個別の健康指導や取組みを行い模索しながら利用者さんひとりひとりに個別対応を試みました。防火・防災対策については皆さんが安心・安全な暮らしができるよう、防火避難訓練及び水防法（土砂災害時避難確保計画）に基づいて大浦校区の指定避難場所まで移動訓練を実施しました。

インフルエンザ・食中毒等の感染症対策に於いては、予防対策を徹底しグループホームから発症者が出る事なく、皆さん元気に過ごされました。

余暇活動についてはサッカーやプロ野球などスポーツ観戦を計画し、また夏季、冬季の休みや連休期間中に帰宅できない方を対象に「初詣」「温泉」など外出の機会を計画しました。「買い物支援」については季節毎に実施して普段着や作業服、靴及び大型の収納ケースなど購入支援が必要な方については同行支援を行った。

職員の資質向上については、社会福祉主事取得や各種研修会の参加を促し、障害福祉サービス事業所の職員としてのスキルアップに努めた。

#### (2) グループホーム利用者さんの豊かな人格形成

今年度は、視察研修旅行を始め、勤労感謝の会、更にはボウリングやカラオケなど利用者さんが希望の多かった行事と買い物支援を同時に計画し、地域社会との交流を図りながら皆さんが楽しい生活が送れる支援に努めた。

#### (3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、偶数第3土曜日を環境整備の日として ホーム内外の清掃を行い 整理整頓の行き届いたホームづくりを行った。また細かい部分については定期的に支援員にて清掃を行った。

#### (4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある明るいホームづくりに努めた。

互助会会議を通じて利用者の皆さんの意見を尊重し、自主的に取り組まれることはやらせてみて出来ないところを支援するように取り組んだ。

### 2. 福祉事業活動

本年度は利用者さんが1名増員になり、福祉事業活動収入 47,708千円と前年より3,166千円の増収となった。なお利用者さんの支援については、個別支援計画に基づき、生活支援員を中心に世話人と連携を図りながら、本人の意思を尊重して支援にあたった。

## 平成30年度 多良岳福祉園 事業実績報告書 (案)

### 1. 総括事項

#### (1) 施設運営について

平成30年度は 佐賀西部コロニー 諸規定の全面改正を行い、職員の処遇向上に努めた年でありました。特に職員の休日は、4週間単位の変形労働時間制を導入により、土曜日、日曜日、祝日に関係なく、利用者様の支援にあたるようになりました。このことにより、生産活動を中心に取り組んできた支援から併せて生活支援にも力を注ぐという本格的な施設づくりの第1歩の年となりました。

こうした事により、生活支援においては、各種余暇活動と併せ、部屋替えによる居室の大規模な清掃や入浴介助が必要となった利用者様に対する支援、そして夜間生活支援員と協同した24時間の支援の充実も図っております。

また防犯・防災対策として、防犯カメラの設置と自動火災報知機の改修なども行っております。

#### (2) 施設利用者の豊かな人格形成

5月に野球観戦、8月は七夕まつり、10月には三瀬どんぐり村への余暇活動、12月にはクリスマス会を行いました。こうした事以外でも様々な余暇活動に取り組んでおります。特に佐賀西部コロニー運動会が台風接近により中止になったものの、勤労感謝の会は“みんなが主役 勤労感謝の会を盛り上げよう！”とテーマを掲げ、職員が一つになり利用者様と家族様が楽しんでもらえるよう取り組みました。

#### (3) 快適な質の高い施設づくり

洗濯訓練室や洗濯干し場の設置、居室のクロス張替え、更には作業場への連絡通路の傾斜を解消するなど、施設整備を行っております。また ふれあいコーナーには毎月お誕生日カードを掲示したり、12月には、玄関前の楠木のライトアップと巨大リースの設置、そして屋内にはクリスマスツリー、1月には門松の設置と利用者様が季節を感じながら、喜んでいただける施設づくりに取り組んできました。

また 今年も毎週金曜日の整理整頓重点の日と決め、日頃 手が行き届かない場所や居室の片づけをご利用者と職員が一緒になり取り組んでいます。

職員の資質向上については、OFF JT として県社協主催の各種研修会への参加、そしてOJT として毎月の研修発表会を実施し、キャリアパスに求められる能力の向上に取り組んだ。また9月には佐賀県より職員を派遣していただき、法人内職員研修「虐待防止研修会」も実施し、虐待のない施設づくりにも取り組んできました。

ご利用者の支援にあたっては、個別のケース会議を開催しながら、支援方針の共有をしながら、個別支援計画に基づき、チームによる丁寧な支援に心掛けております。

#### (4) 働き甲斐のある施設づくり

美化部門を工芸部門と改め、活動場所を集会場へ移動、更には職員の体制充実を図るなど、利用者の支援に応じた 各部門の職員のバランスと活動内容の見直しも行いました。また しいたけ栽培用の殺菌釜の更新やさつまいも販売の為にホットショーケースを購入し、たらふく館へ設置していただくなど、生産活動が事業収入につながるよう実施しております。

### 2. 福祉事業活動

本年度は、関係機関からの相談を受け、実習訓練を行いながら、2名の方が入所しております。また本年度は職員の処遇改善のために処遇改善加算Ⅰの取得を行った事で、事業収入としては、昨年度の障害福祉等サービス事業収益183,504千円に対し 本年度は、203,668千円となり20,164千円の増益となった。

### 3. 日中事業活動

今年度は、農産部門、園芸部門、野草部門、工芸部門の4つの部門の事業の安定に取り組んできました。特に生活支援活動により生産率の減少と生産機器の故障などで就労支援事業収入は 全体で20,554千円にとどまったが、利用者の工賃については、一人当り月平均12,450円の支給となり昨年度と同額となった。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	平成30年度 (千円)	平成29年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	17,017	19,520	▲2,503	87.2
園芸部門収入	3,776	4,045	▲269	93.3
野草部門収入	1,507	1,040	467	144.9
工芸部門収入	101	82	19	123.2
合 計	22,401	24,687	▲2,286	90.7
一人当り工賃	(円/月) 12,450	(円/月) 12,449	1	100.0

### 4. 相談支援事業

佐賀県相談支援ネットワーク協会の設立もあり、本年度も関係機関と連携を深めながら、地域の社会資源を活用しながら、利用者意向を第一としたサービス等利用計画の作成に努めております。

# 平成30年度 白石作業所 事業実績報告書

## 1. 総括事項

### (1) 施設運営について

- (イ) 今年度は、介護報酬費改定が実施され 就労継続B型事業所では平均工賃支給額に応じた基本報酬が設定され、生産活動の向上と工賃向上が一層進められていった年度であり、厳しい施設運営となった。こうした中、施設利用者と施設の安全・安心な環境を整備していくため、設備整備と職員の資質向上や意識改革に努めていき、就労継続B型事業所として施設資源を十分に活用しながら、利用者のニーズに適った明るく元気よくをモットーに働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。そうした中で、今年も利用者様が自ら地域での販売活動等を通してご支援をいただいた皆様に支えられながら、地域とともに就労の喜びと生き甲斐とを持って作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。
- (ロ) 利用者様の処遇に関しては、「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等が起きず作業の安全が守られるように、職員の意識向上の啓発に努めるながら 労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者様と施設の安心・安全確保のため通報システムや災害時の対応に対応できるように職員研修等も行い、施設の保安全管理を進めた。
- (ハ) 職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すとともに、各種研修会等の参加を全職員に義務付けし、障害福祉サービスの職員としてのスキルアップに努めた。又、新たに就業規則等を改正し、働き方改革にも応じた職員処遇の大きな改善に努めた。

### (2) 施設利用者様の豊かな人格形成

佐賀西部コロニー 3施設合同による視察研修旅行、収穫祭、隣接する老人福祉施設の納涼祭への参加、また、県内各地区の婦人会・老人会等との「ふれあい事業」の実施など施設内外での行事や地域との交流も活発に行うことにより、社会性の向上とコミュニケーションと交流の喜びを習得させるよう努めた。

### (3) 働き甲斐のある施設づくり

法人の運営理念である『互譲互助』精神と『朝の笑顔で、明るく楽しい1日を過ごしましょう』を1年の目標として、挨拶が響きあう明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制をつくり、安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。又、利用者様で作る互助会会議を毎月1日に開催して、自分たちの意見で話し合いながら1ヶ月の目標を立て、明るく皆さんが協力し合いながら楽しい施設づくりに努めた。

## 2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、68,045千円となり前年度より434千円の増額となる決算となった。施設整備の中では 台風被害を受けた「こだわり館」の看板と雨漏り改修工事を行った。又、今年度も白石町の就労支援事業所に対する補助金を受けて、旧木工所を園芸作業場として整備し、冷暖房用対応のエアコンを新たに設置した。その他、今年10月に実施される消費税増税に対応するためのPOSレジシステムの改修も年度末に合わせて行い、新年度から対応できるように緊急に整備を行った。利用者の利用状況については、2名の新たに増員があったが、退所者はなく施設運営ができた。

## 3. 就労事業活動

本年度の就労事業収入は 37,736千円 となり、自家製品の製造販売である農産収入も一般商品の販売収入も収入減により 前年度に対し 1,744千円 の減収となったが、経費節減と作業効率の向上に重点を置きながら就労事業を進めた。利用者工賃については、毎年工賃向上を目標に利用者・職員一体となって取組み平成30年度は 一人当り 月平均 26,653円 となり、前年度の 26,602円 に対して 51円 の増額となり、平成30年度の目標工賃を達成することができた。部門別の実績については、下記のとおりである。

部門	年度	平成30年度 (千円)	平成29年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産収入		20,012	20,461	▲ 449	97.8
販売収入		17,724	19,019	▲ 1,295	93.2
合 計		37,736	39,480	▲ 1,744	95.6
1人当り工賃		(円・月) 26,653	(円・月) 26,602	(円・月) 51	100.2